

ホームページへの掲載

10月30日掲載

岐阜県立東濃高等学校

学 校 長 亀山 弘

学校住所 可児郡御嵩町御嵩 2854-1

0574-67-2136 fax0574-67-6204

ホームページ <http://school.gifu-net.ed.jp/tono-hs/>

- 1 会議の名称 平成30年度 第2回学校運営協議会（岐阜県立東濃高等学校）
- 2 会議の構成

委 員	斎藤 之男	御嵩町ボランティア「輝き隊」
	田中 妙子	税理士
	各務 眞弓	可児市国際交流協会事務局長
	鍵谷 欣弘	東海化成工業株式会社人事総務部課長
	木村 彰伯	東濃高等学校 PTA 会長
	佐藤 智恵美	東濃高等学校 PTA 副会長
	古賀 和美	東濃高等学校 PTA 副会長
	池田 万里	東濃高等学校 PTA 書記
	川畑 敦子	東濃高等学校 PTA 会計
学校関係者	亀山 弘	校 長
	脇田 治之	事務長
	林 靖	教 頭
	青井 俊久	教 頭
	吉田 益穂	教務部長
	大島 直人	生徒指導部長
	三田村広隆	進路指導主事
- 3 会議の目的 本校の教育活動について各委員に提言及び助言を求め、もって今後の学校運営の参考とするなど、本校教育の発展に資することを目的とする。
- 4 会議の開催 平成30年10月24日（水） 14：45～16：15
岐阜県立東濃高等学校 会議室
委員8名と学校関係者6名出席
- 5 会議の概要 (1) 学校祭参観（自由参観）
(2) 日程説明、校長挨拶、会長挨拶、新委員委嘱、自己紹介
(3) 学校説明

- ・学校評価の結果
 - ・これまでの取組の説明
- (4) 協議・意見交流

- 6 会議資料
- (1) 会議レジュメ
 - (2) 学校評価の結果と分析
 - (3) 演劇ワークショップ」生徒の事後アンケート
 - (4) 地域連携による活力ある高校づくり事業報告書
 - (5) 月刊「TONOKO」7～10月号

7 協議内容

学校評価の結果 教頭 林 靖	・生徒のアンケート結果は、すべての項目で肯定的な回答（A・B合計が50%以上）であった。 ・保護者等のアンケート結果は、昨年度に比べ肯定的な回答（A・B合計が67%以上）が減った。「E：わからない」と答える割合も増加している。
これまでの取組 教頭 青井 俊久	・「演劇ワークショップ」「地域連携による活力ある高校づくり事業」について説明。
各委員より 意見1	・学校の情報発信として「文書の配布」があるが、子どもが忘れてたり破棄したりして親に届かないことがある。他校でもやっているが、重要な文書については発送したことを知らせるメールを送って欲しい。
意見2	・今日の文化祭でも保護者の参加が少なかった。授業参観や学校行事への参加率を上げるには、保護者同士のコミュニケーションがポイント。義務教育では近所で誘い合って参加しているが、高校ではそのコミュニティがない。部活動の保護者会を活用したり、地区懇談会を実施したらどうか。また、年度当初に、年間で保護者が参加する行事の一覧（カレンダー）を配布したらどうか。
意見3	・ロボコン部が全国大会・世界大会で活躍しているが、中学生が興味を持ちそうな分野なので、もっと強力にロボコン部をアピールしてはどうか。
意見4	・今回の資料で「学校通信」を初めて見た。保護者に配布されていないのは残念。是非配布して欲しい。他校では毎月ではないが所在地以外の市町の自治会にも配布している。

意見5	・演劇ワークショップでコミュニケーション能力が向上しているのは良いことだが、その成果を2・3年生に検証させているか。1年生の時に演劇ワークショップをやったから、今こういうことができるようになったという自信を持たせることが大切だと思う。
意見6	・学校を活性化させるために、中学生や地域、保護者に働きかけることは大切だが、一番重要なことは今在籍している生徒たちに「学校が楽しい」と思わせることだと思う。その特効薬はないと思うが、地道な活動を積み重ね、継続させて欲しい。そのことが結果的に学校の活性化につながると思う。
会議のまとめ	○本校ではメール発信の際、外国人保護者のための翻訳が必要で、タイムリーな発信に課題がある。文書発送のメールはひらがな使用など検討する。 ○保護者が参加する年間行事予定の配布については、学校カレンダーの作成も含めて、担当と協議する。地区懇談会の実施は、同じ結果になるだけなので難しいと考えている。 ○ロボコン部の中学校へのアピールは、動画作成など工夫して実施したい。 ○「学校通信」の保護者への配布は実施する。御嵩町以外の自治会への配布は、他校の情報を聞きながら今後検討する。 ○特に何かで検証しているわけではないが、生徒のコミュニケーション能力の向上はあらゆる機会を通して指導していく。 ○今いる生徒への指導に軸足を置きながら、外部への情報発信を活発に行い、今後も学校の活性化に努力していきたい。